

# 統計学

第 111 号

---

## 研究論文

- 経済センサスを活用した事業所の開業率・廃業率等の推計  
..... 高橋 雅夫・高部 勲 (1)

## 報告論文

- 副標本による標本誤差の計測  
..... 山口 幸三 (17)

## 書評

- 浅利一郎・土居英二 著『地域間産業連関分析の理論と実際』(日本評論社, 2016年)  
..... 宮川 幸三 (27)
- 山下隆之 編著『地域経済分析ハンドブック: 静岡モデルから学ぶ地方創生』  
(晃洋書房, 2016年)  
..... 居城 琢 (32)
- 李 潔 著『入門GDP統計と経済波及効果分析』(大学教育出版, 2016年)  
..... 櫻本 健 (38)
- 松尾 匡・橋本貴彦 著『これからのマルクス経済学入門』(筑摩書房, 2016年)  
..... 大西 広 (43)

## 本会記事

- 経済統計学会第60回(2016年度)全国研究大会・会員総会 ..... (46)
- 編集委員会規定・投稿規定・執筆要綱・投稿原稿査読要領 ..... (72)

---

2016年9月

経済統計学会

## 創刊のこ と ば

社会科学の研究と社会的実践における統計の役割が大きくなるにしたがって、統計にかんする問題は一段と複雑になってきた。ところが統計学の現状は、その解決にかならずしも十分であるとはいえない。われわれは統計理論を社会科学の基礎のうえにおくことによって、この課題にこたえることができると考える。このためには、われわれの研究に社会諸科学の成果をとりいれ、さらに統計の実際と密接に結びつけることが必要であろう。

このような考えから、われわれは、一昨年来経済統計研究会をつくり、共同研究を進めてきた。そしてこれを一層発展させるために本誌を発刊する。

本誌は、会員の研究成果とともに、研究に必要な内外統計関係の資料を収めるが同時に会員の討論と研究の場である。われわれは、統計関係者および広く社会科学研究者の理解と協力をえて、本誌をさらによりよいものとすることを望むものである。

1955年4月

## 経 済 統 計 研 究 会

## 経 済 統 計 学 会 会 則

第1条 本会は経済統計学会（JSES：Japan Society of Economic Statistics）という。

第2条 本会の目的は次のとおりである。

1. 社会科学に基礎をおいた統計理論の研究
2. 統計の批判的研究
3. すべての国々の統計学界との交流
4. 共同研究体制の確立

第3条 本会は第2条に掲げる目的を達成するために次の事業を行う。

1. 研究会の開催
2. 機関誌『統計学』の発刊
3. 講習会の開催、講師の派遣、パンフレットの発行等、統計知識の普及に関する事業
4. 学会賞の授与
5. その他本会の目的を達成するために必要な事業

第4条 本会は第2条に掲げる目的に賛成した以下の会員をもって構成する。

- (1) 正会員
- (2) 院生会員
- (3) 団体会員
- 2 入会に際しては正会員2名の紹介を必要とし、理事会の承認を得なければならない。
- 3 会員は別に定める会費を納入しなければならない。

第5条 本会の会員は機関誌『統計学』等の配布を受け、本会が開催する研究大会等の学術会合に参加することができる。

- 2 前項にかかわらず、別に定める会員資格停止者については、それを適応しない。

第6条 本会に、理事若干名をおく。

- 2 理事から組織される理事会は、本会の運営にかかわる事項を審議・決定する。
- 3 全国会計を担当する全国会計担当理事1名をおく。
- 4 渉外を担当する渉外担当理事1名をおく。

第7条 本会に、本会を代表する会長1名をおく。

- 2 本会に、常任理事若干名をおく。
- 3 本会に、常任理事を代表する常任理事長を1名おく。
- 4 本会に、全国会計監査1名をおく。

第8条 本会に次の委員会をおく。各委員会に関する規程は別に定める。

1. 編集委員会
2. 全国プログラム委員会
3. 学会賞選考委員会
4. ホームページ管理運営委員会
5. 選挙管理委員会

第9条 本会は毎年研究大会および会員総会を開く。

第10条 本会の運営にかかわる重要事項の決定は、会員総会の承認を得なければならない。

第11条 本会の会計年度の起算日は、毎年4月1日とする。

- 2 機関誌の発行等に関する全国会計については、理事会が、全国会計監査の監査を受けて会員総会に報告し、その承認を受ける。

第12条 本会会則の改正、変更および財産の処分は、理事会の審議を経て会員総会の承認を受ける。

付 則 1. 本会は、北海道、東北・関東、関西、九州に支部をおく。

2. 本会に研究部会を設置することができる。
3. 本会の事務所を東京都文京区音羽1-6-9（懶音羽リスマチックにおく。

1953年10月9日（2016年9月12日一部改正[最新]）

【書評】

李潔 著  
『入門 GDP 統計と経済波及効果分析』

(大学教育出版, 2016年)

櫻本 健\*

李 (2016) (以下本書) の書評をまとめるに際して、書籍間比較、著書の構成、本書の良いポイントと課題という3点に分けてまとめる。

1. 書籍間比較

本書の目的は、GDP統計・産業連関表(以下IO)と実証分析について、大学生向けの半期15回授業用のテキストを想定して作成されている。退屈な授業とならないように難しい概念を平易に説明し、PCを利用しなくても良い程度にデータによるごく簡易的事例とセットで学べるように工夫している。

国民経済計算体系(SNA)の関連分野では統計作成機関の初学者向けテキストとして、主にLequiller and Blades (2014)が海外では広く利用されている。この本は2014年に2版が発行されて、元々分厚かったが、一層厚くなった。日本でも作間(2003)、中村(2010)といった定評のある教科書もあるものの、1学期のテキスト採用に耐える、安価でコンパクトで専門的なテキストが不足している。本書はSNAの解説書という位置付けではないが、関連分野に有力な一冊が加わることで経済統計分野の授業のテキスト環境が充実する

ので、授業がやりやすくなるだろう。本によって目的や役割が異なるにもかかわらず、無理を承知で表1のように特徴に違いが分かるように比較表を作成した。Lequiller and Blades (2014)、作間(2003)、中村(2010)の3冊は、SNAの解説書か、SNAを中心とした経済統計の解説書という位置付けであるのに対し、本書の目的はGDP統計と産業連関分析である。つまり、表1の他の比較本は少し目的が異なる。

本書は本の構成と説明内容について、初学者向けのテキストとしてLequiller and Blades (2014)に少し重なる面が2点ある。GDP統計の初歩的な知識を教えようとしているところと、新興国のGDP統計に関する記述が充実しているところである。本来SNAでは初学者向けの国連のハンドブックもあるが、あまり使われず、代わりにLequiller and Blades (2014)が使用されるケースが多い<sup>1</sup>。Lequiller and Blades (2014)は先進国の事例に加えて中国とインドのSNAもカバーしている。SNAの海外

<sup>1</sup> 国連ハンドブックは、統計作成機関の初心者がExcelデータなどと一緒に自主的に学ぶ教材として設計されているから、大学など教育機関で広範囲には利用されにくい。初学者向けにはUnited Nations Statistics Division (2004)、United Nations Statistics Division (2013)、United Nations Statistics Division (2014)の3冊がある。うち2冊は2008SNA導入に伴って専門家間で数年準備されて、数年かかって最近改訂された。

\* 正会員, 立教大学経済学部  
〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1  
e-mail: tsakura@rikkyo.ac.jp

表1 Lequiller and Blades(2014) と本書の比較

	Lequiller and Blades (2014)	作間 (2003)	中村 (2010)	李 (2016)
言語	英語	日本語	日本語	日本語
対象者	主に統計作成機関職員, 経済分野の大学生	主に経済統計ユーザー, 経済分野の大学生	主に経済統計ユーザー, 経済分野の大学生	主に経済学部大学生
特徴の違い	統計作成機関の初任者や, 大学で学ぶことができる初歩的なテキスト。	国民経済計算体系を中心に経済統計の専門的・概念的な理解を学べる大学生向けテキスト。	日本の国民経済計算体系について, 大学生向けのテキスト。勘定体系全体を概ね網羅している。	アジアの産業連関方式を前提にGDP統計・IOの体系的な理解についてまとめた大学生向けテキスト。SNAやIOについて特に歴史的な成り立ちを踏まえて知識が得られる。
ページ数	520	352	136	191

比較という意味で, 本書と役割が似ている。ただ, 本書はLequiller and Blades(2014)よりもコンパクトで見やすく買やすい印象を受ける。その理由は後述する。

大学で経済統計分野での科目は, 多く考えられる。政策系の科目と異なって統計自体に深い興味・関心があって授業を選択する学生は少数で, 多くの場合はやむをえず便宜的に科目を取るケースが多いのが実情である。大学院の科目も多くの場合は似たような状況であることを考えると, 実態として教科書選択で悩むケースが多い。要するに興味関心がある人が関心を持つようにするのが経済統計分野の教育の中心となる。そのため, 例えば学部レベルではLequiller and Blades(2014)をテキストとして, 経済統計分野の重要な要点を網羅するように, 授業を行うことは難易度や学生の興味関心を維持する上でかなり難しい。そういうさじ加減が難しい授業向きの経済統計テキストの要件としてコンパクトで学生から2千円未満位の安いことが望ましいと考える。本書はその点では大変有用である。本書は用語や専門知識に細心の注意

表2 章立て

	章タイトル
1章	国民経済計算概論
2章	G・D・Pとは何か
3章	GDP三面等価と産業連関表
4章	物価指数と数量指数
5章	実質GDPと産業連関表
6章	産業連関モデルの考え方ー閉鎖経済の場合ー
7章	経済波及効果分析ー開放経済の場合ー
8章	日本と中国のGDP統計作成の比較
9章	付加価値のダブルデフレーション法とシングルデフレーション法の大小比較
付録	指数算式について, 行列計算入門, 日本2012年産業連関表, 中国2012年産業連関表, 参考図書

を払っている。今日では使用機会が限られる, MPSといった用語があるので, 読んでいて用語一覧が欲しくなる時がある。用語一覧が無いという点は, 試験の前に専門用語を丁寧に説明しておくことが必須となるという意味で,

本書をテキストに選ぶ際に注意点となる。

## 2. 著書の構成

全体の構成について1～5章がIOから見てSNAについてまとめた基本編で、6～7章はIOの基本と経済波及効果分析である。8～9章が著者の研究をベースに応用的な分析事例からGDP統計と産業連関分析について、より深い理解が得られるようにしている。専門知識の情報を抑えているが、重要な専門的な意義をわかりやすくまとめている。その結果、コンパクトだが、内容も十分にまとまっている印象を受ける。

各章の構成について、やや長くなるが、ポイントを絞って紹介する。1章はSNAを取り巻く、幅広い全体的な概念の説明を行っている。フローとストック、SNAの国際基準の変遷、SNAとサブシステム、勘定の説明、基準に応じた概念の変化、SNAとMPSの比較、SNAと統計の種類、県民経済計算、統計法の改正といった内容をカバーしている。特に社会主義国(MPS)と自由主義国(SNA)の体系の違いがわかりやすく学ぶことができる、教育向けテキストは他にあまりない。2章は、学問的に考えさせられる概念(生産境界、帰属計算、無償労働、国内概念と国民概念、総概念と純概念)の説明を行っている。3章で、GDP三面等価、生産勘定の導入、中間生産物と最終生産物を説明した後、X表、V表U表といったSNAから見た産業連関統計を見ている。4章は物価・数量算式、連鎖方式、各種統計を順にまとめている。この本の特徴はコンパクトでありながら、細かいことも学べる。要素逆転テストやコラムでの購買力平価の説明は大変わかりやすい。

5～7章はIOを考えながら学ぶという意味でセットとなる。5章は実質GDPをベースにシングルデフレーションとダブルデフレーションの違いを学び、日中GDP比較を行う基本的な情報が得られるようになっている。著

者は学生に推計方法の違いに立脚した計数の比較を学ばせる意図を持っているのであろう。6章は閉鎖経済に基づく産業連関モデルの説明で、均衡産出高モデルと均衡価格モデルを説明した後、日本のIOの説明に入る。7章は競争輸入型、非競争輸入型の違いと分析モデル、波及効果モデルへの注意点を説明している。第2次波及効果モデルの事例を網羅しているところがとても良い。

8～9章では概念、事例、コラム、付録が相互に関連し合い、意欲的な学生にとって興味がわくように工夫が施されている。著者が教育する中で、試行錯誤してきた取組が存分に反映していることが読者にも伝わってくる。文章中で寓話が多く登場するので、学生が考えさせられる機会が多く与えられる。

8章は歴史的成り立ちや特徴の違いに力点を置いた、日中間GDP推計方法の比較である。8章は実際の公表資料と一緒に見るのが見やすいので、授業でこのテキストを使う場合には多少補助資料を配布したりしながら授業を進めた方がいいかもしれない。本の中で公表資料として付録3と4で日中の産業連関表が示されている。授業などで本書を採用して資料を付け足す場合には、中国は統計年鑑だけでよいが、日本は公表物の種類が多様なので、その点は多少確認が必要となる。それから8章の良いところは加工統計といえども汗をかいて努力してきた経緯をさりげなく学べるようにしているところである。こうした地に足の着いた実感を学生が学ぶということは大事なことである。

9章は著者の研究を背景にデフレーション法のための比較を行っている。個人的な印象として、GDPデフレーター自体は学生から見てすぐに興味関心がわくような内容とは言えない。ただ、4章と5章を経てきているので難易度は大きく下げられている。学生は日中GDP統計の分野を学び、デフレターの構造を使って、加工統計の実証研究方法も学ぶこと

ができる。9章の内容は、学生が学べる実証研究の例として良い内容である。9章を理解するためには頭で論理を組み立てて計算の原理とデータの両方を追わなければならない。このことは学生自身が実証研究を進める第一歩になるので良い例である。

### 3. 本書の長所と課題

IOとSNAのテキストは、わかりやすく説明するのが大変であるが、本書はよく練られているため、全体としてかなり見やすいテキストとして仕上がっている。全体を通じてこの本の良いところは、SNAではなく、GDPと産業連関に焦点を絞っているところである。もう少し言い足すと、絞っていることは2点あり、第一に対象者を大学学部生向けテキストということで役割を明確に絞っている。第二に内容の範囲を広げず、情報量を抑えたことで、非常に分かりやすくなったということである。表1のLequiller and Blades(2014)とのページ数の差を見れば、一目瞭然である。Lequiller and Blades(2014)は93SNAや08SNAを中心としてSNAの勘定全体を網羅しているが、分野が幅広いため、理解が難しくなっている。SNAを学ぶのであれば、産業連関表を中心に68SNAの方が見やすいということは長年知られている。本書の見やすさはそうした伝統的な説明の筋に沿っていて、さらにそこからGDP統計に焦点を絞っていることに要因がある。そして情報量が絞られる一方で、GDPの推計方法や産業連関分析ではきちんと専門的に重要なポイントをおさえるようにしており、豊富なコラムとの組み合わせで学生からの関心を得やすいように工夫している。コイル(2016)はGDPに説明を特化している

という意味で、本書と似た位置付けとなっており、同じような評判が海外で立っている。やはり経済統計において評判の良いテキストとは何たるかを考える上で、内容の絞り込みがポイントとなることが示唆される。

本書の専門的な細かさについても少し触れる。本書は後半で応用的な実証研究も想定しているため、ポイントを絞っているが、部分的に専門的な説明も細かく展開している。おそらく本書が想定しているのは、①GDP統計と経済波及効果分析について基本をおさえること、②デフレーターの種類と実質概念の捕捉問題を実証的に理解すること、③中国と日本の比較も行うことで、統計作成の方法や特徴が明確となることを感覚的に理解できるようになることを学生に求めているのだと考える。その基準は概ね公益にかなっていて専門的に厳しすぎないため、妥当である。

本書にも多少課題がある。2016年末に導入予定の2008SNAによってSNAはそれなりに大きな内容の改定が見込まれている。本書にもある程度織り込まれているが、マクロの統計が様々な分野と接合されてきた経緯や、行政情報や各国の統計を総合しなければ、マクロの情報を理解できなくなっている現状など、最新の成果を学生にわかりやすく伝えることはある程度情報を絞る中で省かれている。本書を通年で使用する場合は、部分的に大学院で使用するなどのケースもあるように思う。私の提案としては、2版以降で公表資料の種類をどこかで少し紹介しておく、授業に採用する教員が授業の幅を大きく広げるきっかけをつかみやすいように思う。小さい課題はあるが、有用なテキストが経済統計分野に加わったことを心より歓迎したい。

### 参考文献

- 作間逸雄(2003)『SNAがわかる経済統計学』有斐閣アルマ  
櫻本健(2016)「国民経済計算体系から見た資金循環統計における教育上の課題—資金循環統計関連

- のデータはSNAでどのように説明されているのか —」立教大学社会情報教育研究センター『社会と統計』第2号
- ダイアン・コイル (著), 高橋璃子 (翻訳) (2015) 『GDP —— 〈小さくて大きな数字〉の歴史』みすず書房
- 中村洋一 (2010) 『新しいSNA - 2008SNAの導入に向けて』日本統計協会
- 李潔 (2016) 『入門 GDP統計と経済波及効果分析』大学教育出版
- Lequiller, François and Derek Blades (2014), *Understanding National Accounts 2014*, OECD publishing 2版, OECD HP <http://www.oecd.org/std/UNA-2014.pdf>
- United Nations Statistics Division (2004), “Handbook of National Accounting: National Accounts-A Practical Introduction”.
- United Nations Statistics Division (2013), “Guidelines on Integrated Economic Statistics”.
- United Nations Statistics Division (2014), “Handbook of National Accounting: Financial Production, Flows and Stocks in the System of National Accounts”.
- 上記3冊について国連HP上より手に入れられる。  
<http://unstats.un.org/unsd/nationalaccount/pubsDB.asp?pType=2>

**編集委員会からのお知らせ**  
**機関誌『統計学』の編集・発行について**

編集委員会

---

本年9月より、新しい規定にもとづいて、「研究論文」と「報告論文」が設定されました。皆様からの積極的な投稿をお待ちしております。

1. 投稿は、常時、受け付けています。なお、書評、資料および海外統計事情等については、下記の[注記2]をご確認下さい。
2. 次号以降の発行予定日は、  
第112号：2017年3月31日、第113号：2017年9月30日です。
3. 投稿に際しては、新規定にもとづく「投稿規程」、「執筆要綱」、および「査読要領」などをご熟読願います。最新版は、学会の公式ウェブサイトをご参照下さい。
4. 原稿は編集委員長(下記メールアドレス)宛にお送り下さい。
5. 原稿はPDF形式のファイルとして提出して下さい。また、紙媒体での提出も旧規程に準拠して受け付けます。紙媒体の送付先は編集委員長宛にお願いします(住所は会員名簿をご参照下さい)。
6. 原則として、すべての投稿原稿が査読の対象となります。
7. 通常、査読から発刊までに要する期間は、査読が順調に進んだ場合でも、2ヶ月間程を要します。投稿にあたっては十分に留意して下さい。

編集委員会、投稿応募についての問い合わせは、  
下記メールアドレス宛に連絡下さい。  
また、編集委員長へのメールアドレスも下記になります。

editorial@jsest.jp

編集委員長 朝倉啓一郎(流通経済大学)  
副委員長 藤井輝明(大阪市立大学)  
編集委員 橋本貴彦(立命館大学)  
前田修也(東北学院大学)  
山田 満(東北・関東支部所属)

---

[注記1] 『統計学』の定期刊行に努めておりますので、できるかぎり早期のご投稿をお願いします。112号(2017年3月31日発行予定)への掲載を想定した場合、「研究論文」と「報告論文」の原稿は、2017年1月初旬を目途として、それまでにご投稿ください。

[注記2] 書評、資料および海外統計事情等について、執筆、推薦、および依頼等をお考えの会員がおられましたら、企画や思いつきの段階で結構ですので、できるだけ早い段階で、編集委員会にご一報下さい。

以上

---

編集後記

研究成果を投稿下さいました執筆者の皆様、査読に関わって下さいました皆様、そして、書評の依頼をお引き受け下さいました皆様に、心からお礼申し上げます。とくに、本号は、本年9月からスタートした新規定にもとづく編集作業でもありましたので、関係する多くの皆様のご支援を頂くことで、発行することが出来ました。編集委員一同、重ねて感謝申し上げます。

さて、次号112号からは、通常の論文に加えて、「『統計学』創刊60周年記念特集論文」の掲載が開始される予定です。楽しみにお待ちしております。

編集委員会では、機関誌『統計学』を充実させていくために、皆様からの率直なご意見と、そして、研究成果の積極的なご投稿をお待ちしております。今後ともよろしくごお願い申し上げます。

(朝倉啓一郎 記)



## 執筆者紹介 (掲載順)

高橋雅夫 (総務省統計局)                      高部 勲 (総務省統計局)  
山口幸三 (総務省統計研修所)                宮川幸三 (立正大学経済学部)  
居城 琢 (横浜国立大学国際社会科学研究院)   櫻本 健 (立教大学経済学部)  
大西 広 (慶應義塾大学経済学部)

### 支 部 名

### 事 務 局

北 海 道 .....	062-8605 札幌市豊平区旭町 4-1-40 北海学園大学経済学部 (011-841-1161)	水野谷 武志
東 北・関 東 .....	980-8511 仙台市青葉区土樋 1-3-1 東北学院大学経済学部 (022-721-3417)	前 田 修 也
関 西 .....	567-8570 茨木市岩倉町 2-150 立命館大学経営学部 (072-665-2090)	田 中 力
九 州 .....	870-1192 大分市大字旦野原 700 大分大学経済学部 (097-554-7706)	西 村 善 博

### 編 集 委 員

朝倉啓一郎 (東北・関東) [長]    藤井輝明 (関 西) [副]  
前田修也 (東北・関東)            橋本貴彦 (関 西)  
山田 満 (東北・関東)

統 計 学 No.111

---

2016年9月30日 発行	発行所	経 済 統 計 学 会 〒112-0013 東京都文京区音羽1-6-9 音羽リスマチック株式会社 TEL/FAX 03 (3945) 3227 E-mail: office@jsest.jp http://www.jsest.jp/
	発行人	代表者 西 村 善 博
	発売所	音羽リスマチック株式会社 〒112-0013 東京都文京区音羽1-6-9 TEL/FAX 03 (3945) 3227 E-mail: otorisu@jupiter.ocn.ne.jp 代表者 遠 藤 誠

---

# STATISTICS

---

No. 111

2016 September

---

## Articles

- An estimation of establishment birth and death rates based on the Economic Census  
..... Masao TAKAHASHI, Isao TAKABE (1)

## Short Articles

- Estimation of Sampling Errors by using Sub-Samples  
..... Kozo YAMAGUCHI (17)

## Book Reviews

- Ichiro ASARI and Eiji DOI, *The Theory and Practices of Inter-Regional Input-Output Analysis*, Nippon Hyoron sha, 2016  
..... Kozo MIYAGAWA (27)
- Takayuki YAMASHITA ed., *Handbook of Regional Economic Analysis: Regional revitalization learned from Shizuoka Model*, Koyo Shobo, 2016  
..... Taku ISHIRO (32)
- Jie LI, *Introductory GDP statistics and input-output analysis*, University Education Press, 2016  
..... Takeshi SAKURAMOTO (38)
- Tadasu MATSUO and Takahiko HASHIMOTO, *An Introduction to Tomorrow's Marxian Economics*, Chikumashobo, 2016  
..... Hiroshi ONISHI (43)

## Activities of the Society

- The 60<sup>th</sup> Session of the Society of Economic Statistics ..... (46)
- Regulation of the Editorial Committee, Prospects for the Contribution to the Statistics ..... (72)

---

JAPAN SOCIETY OF ECONOMIC STATISTICS

---